

じそんのかね

# 自尊の鐘



葦崎西中学校 学校たより  
2018. 9. 12 N016  
発行責任者 校長 秋澤英俊



「人を敬い、いっくしみ、自らをたつとび高める」、校訓『敬愛自尊』のもとに、毎朝鳴らされる「自尊の鐘」。今日をどのように過ごし自分を高めていくのか、鐘の音を聴きながら「理想をめざし日に進む」(校歌)、生徒たちの成長の姿をお知らせします。

## 心をひとつにして創り上げる楽しさと喜び-第53回西鐘祭

第53回西鐘祭が終わりました。

『僕は生徒会長として、理想の西鐘祭についていつも思っていることがあります。それは、結果がどうであろうと、全校生徒全員が終わった後本当に良かったと思える西鐘祭です。・・・ミスをして誰かのせいにするのではなく、みんなでカバーし合い、励まし合って最後まで全力で頑張る、そして失敗してもそれが後で笑い話になり、よい思い出となる、そんな西鐘祭であってほしいと僕は心から思います』。開祭式の実行委員長あいさつで、生徒会長の秋山大志君が西鐘祭への強い思いみんなに伝えてくれました。

その言葉通り3年生がしっかりとリーダーシップをとり、全校生徒がクラスで、学年で、そして縦割り班でひとつになって、全力で活動し感動を共有できた西鐘祭だったと思います。

発表部門での個性ある部活動の発表、科学部の実験と英語部による英語劇は観客にわかりやすく伝えようと工夫を凝らした発表であり、吹奏楽部は西関東大会出場を決めた演奏を披露し、その堂々たる演奏は観客を魅了しました。1・2年生の劇もそれぞれの学年の力を十分に出し切った発表でした。役者の演技もすばらしく、歌あり、踊りあり、映像あり、そして生演奏ありと、発表時間のすべてにおいて最後まで観客を引きつける内容でした。

劇の最後は3年生の学年劇です。広島に落とされた原爆、人々の夢も生活も家族も一瞬にして奪い去る戦争、「平和とは何か」という重いテーマをあえて選んで取り組んだ3年生の劇は、ずしりと心に響きました。役者の迫真の演技、音響、照明、背景画、大道具・小道具、エンドロール、そして最後の学年合唱、そのすべてが3年間の劇の経験が活かされたレベルの高い表現力でした。最近とはかくコメディタッチのものを生徒達はやりたがる傾向にあります。でもあえてシリアスで重いテーマに正面から挑戦した3年生、後輩達に大きな財産を残してくれたと思います。

最後の全校合唱、曲は今年初めて取り組んだ新曲「花」。ちなみに今年の生徒会スローガンは「挑戦」です。文化部門の発表を終え、達成感と自信を胸にしつとりと思いを込めて歌いました。

2日目は体育部門、天候が心配されましたが、始まる頃には青空が見えてきました。ひとつひとつの種目に全力で、心をひとつにして声を掛け合い競技する生徒達、1年生から3年生まで勝敗を越えたところにある楽しさや喜びを十分に味わっていました。

「協力すること、団結することの大切さ」「みんなで創り上げたときの喜びと楽しさを」とよく言いますが、簡単ではありません。しかし生徒達はこの2日間で、実際に自ら体験し実感し、それらを手に入れました。体験をとおして身につけたものは決して忘れないはずで、閉祭式の最後に全員で歌った校歌は、この2日間で手に入れた大切なものを、これからも決して忘れないようにみんなが確かめているように感じました。感動の大海原へ全員で出航した生徒達は、見事にたくましく成長して帰ってきてくれました。たくさんの感動をありがとう。

# 西鐘祭の軌跡



**軍隊**  
 久保田結翔  
 塚田奏輝  
 中嶋終平  
 樋口柊  
 山本真大  
 野口爽  
 眞壁一成  
 橋本聖弥  
 秋山浩輝  
 中澤昂久里  
**ダンス**  
 矢崎鈴

